

キズナの森づくり ワークショップ通信

in 刈谷田川防災公園



vol. 3

※写真は植樹された桜の苗です

H22年2月に報告された「刈谷田川防災公園整備構想」に描かれている「森と散策ゾーン」などのエリアの具体的な基盤整備、活用、管理などを検討しています。公募により市民ワークショップを立ち上げ、「地域と深いキズナを持てる森」の実現にむけたプランづくりを検討しています。



キズナの森 桜苗木植樹祭

平成22年11月20日(土)
刈谷田川防災公園予定地(キズナの森・他)

概要 地域住民の方々が刈谷田川防災公園(仮称)にもっと関心をもっていただけるように、住民参加による桜苗木の植樹祭を開催しました。

植樹祭当日は気持ちの良い晴天に恵まれ、一般公募で集まった約50人の住民の皆さんが100本の桜の苗木を植樹しました。最初に工事現場を視察し、その後、係員の指導を受けながら植樹を始めました。



*旧堤防沿いを歩く参加者の皆さん



ここが森になったら
子どもたちのいい遊び場になるだろうな~

*撤去工事が進められている今町大橋



ちょっと寂しいけど
今町大橋を通るのもこれで
最後かもしれないな...

*上新田の展望台から工事現場を眺望



ここから見る景色は最高!!
公園ができたときには
大人気スポットになるかもね!

*桜の苗を持って植樹場所に向かう参加の皆さん



まっすぐに植えるのは
なかなか難しいのね～
もう一息頑張つてよ!!

*穴のあいた場所に苗を植えて土をかぶせます



桜は3種類あるのか～
100本あっても50人いたら
あっという間に終わるね



自分が植えた場所を
忘れないようにしないとね♪
なにか目印ないかな～

*思い思いの場所に苗を植樹しています



第4回キズナの森づくりWS*

平成22年12月15日(水) / 中之島公民館
※WS=ワークショップの略



住民参加の管理を実現するため 団体発足の準備会を設立

概要

前回の第3回WSまでは、主に「森と散策ゾーン」を対象とした森づくりをハード面中心で考えてきましたが、最終回となる第4回WSでは、維持管理や活用に特化した検討を行いました。現在、このWS参加メンバーを中心とした住民管理団体を立ち上げる準備をしており、自主的に開かれた会合の報告も行われました。

◆=WS委員さんの発言 ◆=事務局の発言

【準備会の設立経緯の説明】

11月17日にWS参加メンバーで住民管理団体の準備会を開催。組織化についての賛同を得たので、中之島と今町からそれぞれ3名づつ選出した世話人会を立ち上げた。その後、2回の世話人会を開き、世話人会の代表と副代表を選出し、様々な課題についての検討を行った。

- ◆最初は協議会のような任意団体を立ち上げて、最終的にNPO法人化を目指すという方向性で合意した。
- ◆住民による管理組織の目的や活動の柱を検討した。今後は、長岡、見附両市にまたがり、幅広く会員の輪を広げていきたいことを合意した。

世話人会で決めた活動方針

【目的】

防災意識を高めながら地域の絆をプロデュースし、地域間の交流を深めることを目指す

【活動の柱】

- 『防災』: 防災啓発活動、防災訓練、防災ヘリを誘致したイベント
- 『絆』: 凧揚げ、バーベキューなど地域参加の様々なイベントを実施
- 『森の維持管理』: 清掃活動、花壇の整備、植樹





住民の思いだけではできない 行政との協働を目指したい

●住民、長岡市、見附市の3者で協議したい!!.....

- ◆住民団体の立ち上げが決まって、住民側は盛り上がっているが行政のほうにこの動きは伝わっているか?
- ◆新潟県と両市が出席する会合でしっかりと報告されており、両市で調整しながら協議しているところ。
- ◆地域が一体となった住民組織を立ち上げようとしているので新潟県が仲立ちして、住民、長岡市、見附市の3者で話し合いをする場を設けてほしい。
- ◆このWSを通して市民の方々の意見をまとめてから行政につけるという形でどうか。

●住民だけで管理するのは不可能.....

- ◆団体の運営や管理活動などはそれなりの専門知識やノウハウが必要。我々は人手があっても専門知識がない。気持ちだけではカバーできないこともある。
- ◆住民が「地域の宝」をつくらうとしていることを行政が見過すはずはない。しかし、行政がこの活動に乗りやすくなるような環境をつくることは大切。
- ◆第1回のWSで、専門家の先生が「行政が関与せずに市民ボランティアだけで維持管理するのは不可能」と言っていた。当面春からは桜の管理が必要なので、活動資金が必要になる。
- ◆真剣にやれる人や馬鹿になれる人が何人いるかが勝負。立ち上げようとしている住民団体の働きかけによって、県と両市が応援したくなるような活動にしたい。
- ◆立ち上げてすぐには上手に管理ができないと思うので行政と協働でやっていきたい。



最後に決めておきたいことや 確認しておきたい方針など

●活用や維持管理の対象エリアは??.....

- ◆施設や広場も含めると大変なので森の管理のみにすべき。
- ◆広場を活用してイベントをしなければNPOの活動も成り立たない。広場を有効活用して地域の活性化を目指したい。
- ◆森とその他の部分を分けて考えるのは難しい。公園全体として市民が維持管理にかかわることで愛着が湧き、絆を深めることもできるようになると思う。
- ◆まだ組織は立ち上げの段階。どこまでやるかの線引きをこの段階でするのではなく、やりながら、やり方を考えながら、いろいろな人と協力しながら決めていきたい。やらない前提で話を進めると絶対やらなくなるので、「やる」ということを前提に考えていきたい。
- ◆基本は「やる」という方向で頑張って、森のゾーンと広場のゾーンは分けない。イベントなどを通じて出店料を集め、最終的に地域の雇用が創出できれば万々歳。最初から活動の範囲を線引きすべきではない。
- ◆森のゾーン、広場のゾーンではなく、「人と人とがふれあうゾーン」ということで検討を重ねてきたと思っている。



●ごみや落ち葉の処分をするの?.....

- ◆公園でのごみの処理はどのようにすればいいのか。
- ◆両市の制度、仕組みが異なる。長岡市だとごみ袋が有料、空き缶の回収日なども異なる。
- ◆両市の間で検討中だが、いろいろ工夫できると思う。
- ◆落ち葉の処分については、木箱を用意したり、木の根元に集めたりすることで堆肥化する工夫もできる。

●シバザクラの植栽会を利用しよう!!.....

- ◆新潟県の方でシバザクラの植栽会を計画していると聞いたが、これに向けて団体を立ち上げてはどうか。この計画と絡めて長岡、見附の両市との意見交換の場をつくってはどうか。
- ◆新しくできた市民団体のキョオフイベントとして位置づけ、住民団体主催の植栽会を開催してはどうか。県は協賛という形で、3000株程度のシバザクラを用意できる。できるだけ多くの人に声掛けしてほしい。
- ◆シバザクラの植栽会を利用して住民団体としての次の活動につなげていく。

●住民管理団体のあり方について.....

- ◆WSは今回で終了するが、WSに参加したメンバー全員が準備委員ということでいいのではないかと。
- ◆組織が立ち上がったならその段階で辞めたい人もいるかもしれないが、それまでは関係してほしい。
- ◆WSのメンバー以外にも、植樹会や懇親会に参加者した人、前年度のWS参加者にも準備委員会の呼びかけをしたい。
- ◆様々な団体が管理にかかわる「共同体」がいいのか、1つのNPOが全部を引き受けるのがいいのかという議論も必要だが、今は使い勝手の良い公園づくり、管理のしやすい体制、指定管理を受けやすい団体づくりといったことを優先して考えなければ話はまとまらない。
- ◆これからの冬の期間は規約や定款づくり、会員の拡大などをしてはどうか。

まだ最初の第一ステップが終わったに過ぎない気がします。

しかしながら住民の皆さんの高い志によって、2つの行政区にまたがる防災公園の利活用と維持管理の方向性を導き出すことができたことは全国的に誇れる素晴らしい成果です。

さらに、行政の想像を上回る行動力と熱意をもって住民管理団体を立ち上げようとしている皆さんには、これからも希望をもって突き進んでいただきたいです。きっと素晴らしい結果につながると信じています。

これをご覧の地域の皆さんにおかれましては、ぜひ、彼らの活動にご理解とご協力をお願いします。

また、一緒に活動してみたいという方は下記までご連絡ください。最後に、私の力不足により、十分議論し尽せなかったことがあることを深くお詫びいたします。

(コーディネーター・NPO法人地域交流センター 明石)



【事務局】新潟県長岡地域振興局 地域整備部計画調整課「キズナの森づくり」担当
〒940-8567 長岡市四郎丸町173番地2 電話：0258-38-2614 FAX:0258-38-2676
【編集】NPO法人地域交流センター



刈谷田川防災公園の詳細内容はコチラ

刈谷田川利活用

長岡地域振興局HP http://www.pref.niigata.lg.jp/nagaoka_seibi/

このキーワードでインターネット検索してください